



ICT 海外ボランティア会会報 第 103 号

2022 年 5 月 23 日（月）

URL: <https://ictov.jimdo.com>

EML: info.ictov@network.email.ne.jp

目次

◆特別寄稿

[ゼロからのソフトづくり余話\(その2\)](#)

当会特別顧問 [石井 孝](#)

◆JICA の動き

[JICA 海外協力隊 2022 年春募集](#)

[事務局](#)

◆海外グラフィティ

[名刺の数 3000 枚の意味するもの](#)

[日本ベンダーネット社長 エッセイスト \[田上 智\]\(#\)](#)

◆海外便り

[スペインバスク地方・フランス南西部俳柳紀行\(3\)](#)

[元 JICA シニア海外ボランティア \[北垣 勝之\]\(#\)](#)

◆第 13 回 ICT 海外情報ウェブサロン模様

[事務局](#)

ゼロからのソフトづくり余話(その2)

当会特別顧問 石井 孝



本誌第94号に、ソフトウェア開発の経験が全くない素人集団を率いて、100%外注に頼っていた基幹のソフトウェアを内製に切替えるプロジェクト、特にIGSプロジェクトに取り組んだことを記した。IGSとは、NTTと同時に生まれた新電電会社とNTTの市内網を接続するゲートウエーのことである。今回は、その続きについて述べる。

ソフト開発の進捗を何とかつかめるようになった頃には、周囲の予想とは反対に、IGSソフトウェアは着実に完成に近づいていった。周囲の眼も変わってきた。「もしかしたら本当にソフトウェアを作り上げるかもしれないぞ」という見方が社内外で出てきたのである。

しかし、最後の難関が待ち受けていた。それは、IGSの正式稼働日までの残り日数である。当初予定していた時期までに完成できない可能性が大きいことが分かってきた。ここで遅れては、せっかく静かになってきたソフトウェア内製化反対派が盛り返してくる。ソフトウェア開発の遅れで交換機の設置や取り替えが進まずに新電電に影響を与えることになれば、間違いなく「NTTは営業妨害をしている」と非難を浴びることになる。

困り果てた私は真藤社長のところへ行き、遅れの状況を説明した。「このままですと間に合いません」。真藤社長はこともなげに言った。「(遅れても)構わん。任せるから思い切りやれ。外野のことなど気にするな」。

てっきり「遅れは許されない。メーカーの手を借りてでも期日までに仕上げろ」と言われるだろうと覚悟していた私はあっけにとられた。そして「そこまで信頼してもらっているなら、なんとしてでもやり遂げよう」と意気を感じて社長室を後にし、勇んで開発現場へ戻った。

もともと、ずいぶん後になって知ったことであるが、真藤社長は巨大石油タンカーの開発で総責任者を務めた経験があった。あれだけの巨大プロジェクトを陣頭指揮した人であれば、ゲートウエーの一つや二つが動かなくても平気の平左であったのだろう。つまり私を特に信頼していたわけではなく「小さいことで何をびくびくしているんだ」ということだったのだ。

数々の苦労を経て、1987年にIGS用ソフトウェアは期限どおりに完成した。稼働直後はトラブルが起きたが、自作したソフトウェアだけに、すぐさま修正することができた。素人集団が手作りしたソフトウェアは無事デビューを飾ったのである。

その後、中央ソフトウェアセンタは名称を変え、成長を続けた。念願であった交換機のソフトウェア完全内製化も達成した。10年後の1994年には「通信ソフトウェア本部」という一大組織になり、現場のネットワーク運用部門も含めると5000人の体制になった。

ただし、真藤氏から再三言われながら、できなかったことがあった。それは「ソフトウェアのモジュール化」である。「xxソフトウェアを期日どおりに仕上げました」と報告に行くと、いつも怒られた。「また一から作ったのだろう。ただ作ればいいというものではない。ソフトウェアを部品にしておいて再利用することを考えろ」。

これも後から知ったのだが、モジュール化の発想もタンカーからであった。巨大タンカーは大きすぎて通常のドックでは作れない。いくつかのブロックに分割して作り、最後に組み合わせる。共通ブロックをうまく用意しておけば顧客の個別注文に素早くこたえつつ、しかもコストダウンが図れる。ソフトウェア部品化は今日においても大きな課題である。

JICA 海外協力隊 2022 年春募集

事務局

JICA 海外協力隊 2022 年春募集の募集期間は 6 月 30 日(木)正午までです。当会メンバーが応募しやすい案件を抜粋しましたので、奮ってチャレンジしていただければ幸いです。また、JICA 主催の説明会が通年で全国各地及び Web で多数開催されていますので、参加されることをお勧めいたします。

<https://www.jica.go.jp/volunteer/>

<https://www.jica.go.jp/volunteer/seminar/>

<区分欄> A：シニア(20～69歳)、B：シニア(20～45歳)、C：一般(20～69歳)、D：一般(20～45歳)

区分		国名・配属先	要 請 内 容
コンピュータ 技術	C	インドネシア ダルマプルサダ大 学	インドネシアからの元日本留学生が中心となって設立した 4 学部 15 学科を擁する大学において、学内ネットワーク環境改善、サーバー等、端末も含めた関連機器の保守管理を同僚と一緒に取組み、同僚の IT 関連技術の向上に貢献します。
コンピュータ 技術	D	タイ プリンセスチュラ ポーンサイエンス ハイスクール ム ックダハーン校	コンピュータプログラミングに関する授業の補佐を行うとともに、サイエンスハイスクールにおける ICT 教育のレベルアップに他の隊員とも協力して取り組む活動です。
コンピュータ 技術	D	タイ プリンセスチュラ ポーンサイエンス ハイスクール パ トゥムターニー校	コンピュータプログラミングに関する授業の実施に協力するとともに、他校に派遣されている ICT 隊員と協力し、サイエンスハイスクール全校における ICT 教育のレベルアップに取り組む活動です。
コンピュータ 技術	D	タイ プリンセスチュラ ポーンサイエンス ハイスクール ル ーイ校	プログラミング言語に関する授業を同僚とともにを行い、生徒の理解力や思考力向上を図るとともに ICT 教育のレベルアップに他の隊員と協力して取り組む活動です。
コンピュータ 技術	D	タイ プリンセスチュラ ポーンサイエンス ハイスクール ナ コンシータマラ ート校	コンピュータプログラミングに関する授業の補佐を行うとともに、サイエンスハイスクールにおける ICT 教育のレベルアップに他の隊員とも協力して取り組む活動です。
コンピュータ 技術	D	タイ プリンセスチュラ ポーンサイエンス ハイスクール ピ ッサヌロック校	コンピュータプログラミングに関する授業の補佐を行うとともに、サイエンスハイスクールにおける ICT 教育のレベルアップに他の隊員とも協力して取り組む活動です。
コンピュータ 技術	C	タイ 泰日工業大学情報 技術学部	情報技術学部で、コンピュータグラフィックデザインやアニメーション、デジタル画像処理等について、担当する教員や学生等へ指導する活動です。

コンピュータ 技術	D	カンボジア カンダール州職業 訓練センター	首都プノンペンに近いカンダール州の州都に所在する職業訓練校で、情報通信学科の教員の教授力と新技術キャッチアップ能力の向上、及び、学生の技術力向上のためのサポートを行います。
コンピュータ 技術	C	ラオス ルアンパバーン県 情報文化観光局観 光部観光マーケテ ィング課	ウェブサイト(Wordpress 使用)のメンテナンス、更新を行いながら、同僚への引き継ぎを行い、同僚とともに SNS を活用した観光プロモーションのアイデアを考え、可能であれば実践にまでもっていく活動となります。
コンピュータ 技術	D	ラオス ラオス労働組合連 盟	配属先同僚の IT リテラシーの向上、ネットワーク整備・ファイルサーバーの設置を通じた職場の ICT 環境の改善、学生・社会人を対象とした授業に協力する活動です。
コンピュータ 技術	C	モンゴル モンゴル技術カレ ッジ連盟	高等専門学校を統括する連盟に所属し、傘下の 3 つの高等専門学校を巡回して、同僚と共に学生に対してコンピュータ技術を指導します。産業界に貢献できる人材の育成に寄与することが期待されています。
コンピュータ 技術	D	スリランカ ホラナ職業訓練セ ンター	同僚講師と協力して ICT コースの授業を担当します。特にプログラミングを苦手とする訓練生が多いことから、苦手意識を克服する為の授業内容の改善・充実化へ向けた提案が求められています。
コンピュータ 技術	D	スリランカ ラトナプラ技術短 期大学	技術短期大学 ICT 科で同僚講師と共にマルチメディアデザイン分野の授業(3DS アニメーション(3D MAX、MAYA、POSER)、ビデオ編集(Premire)、画像編集(illustrator、Photoshop)を担当します。
コンピュータ 技術	C	エルサルバドル アガペ会チャラテ ナンゴ技術学校	エルサルバドル北部チャラテナンゴ県で日本の専門学校に相当する技術学校において、モバイルアプリケーション開発やネットワーク・データベース構築について同僚教員や学生に指導、カリキュラム改善のための提案をします。さらに、可能であればコンピュータ技術学科の講義を行います。
コンピュータ 技術	C	ジャマイカ ジェンダー局	文化ジェンダー・娯楽スポーツ省のジェンダー局で、スタッフがより効率的・効果的に ICT 技術を活用・運用し、コストパフォーマンスの高い業務ができるように、関連するシステムやマニュアルを整備して支援を行います。
コンピュータ 技術	D	モロッコ テトゥアン県教育 局	地方都市の国民教育省の県局において、同僚職員とともに小学校低学年や障害のある児童の学習効果を高める教材アプリケーションの開発を行い、同省が推し進める ICT 教育を活用して児童や生徒の学力向上に貢献します。
コンピュータ 技術	C	ボツワナ ハボロネ技術短期 大学	首都にあるハボロネ技術短期大学において、同僚と協力してコンピュータのトラブルシューティングやネットワークの保全などの管理業務を行います。また現地スタッフへの技術指導を通して、ICT 全般に精通したシステム管理者の育成を行います。
コンピュータ 技術	D	ボツワナ セロウェ教育大学	首都から車で約 4 時間のセロエに位置するセロエ教育大学において、同僚と協力して学内のネットワークおよびサーバー管理、ウェブ管理の実施等の支援に取り組みます。必要に応じて同僚及び学生に対する指導にも取り組みます。

コンピュータ 技術	D	ガーナ セントジョセフ教 員養成校	ガーナ中西部にある教員養成校にて、ICTを活用した教育・学習教材の作成とその使い方について学生と同僚講師の能力向上を支援します。また、地域内にある教育機関においても同様の技術支援が期待されています。
コンピュータ 技術	C	タンザニア 中小企業開発公社	中小企業支援を目的とした公的機関で、ウェブサイトの更新やイントラネットシステム導入の支援を行います。新しく加わった機能や使い方について内部関係者に周知する活動も含まれます。
コンピュータ 技術	D	ジンバブエ ムコバ教員養成校	ミッドランド州の州都グエルにある教員養成校にて、ICTの授業が円滑に実施されるためのコンピュータ(約100台)の保守管理や校内のICT環境改善のサポートを行います。また、基本的なコンピュータの使い方等に関する学生への指導も期待されています。
コンピュータ 技術	D	ジンバブエ マササ産業訓練校	首都にある産業訓練校において、学内のコンピュータ、ネットワークの適切な維持管理や新たなコンピュータールームの整備をサポートします。また、可能な範囲で、自動車整備や機械工学等を専攻する学生(IT初心者)を対象に基礎的なPC操作等を指導します。
コンピュータ 技術	D	ジンバブエ ベルベディア技術 教員養成校	首都にある技術・職業訓練系教員の養成校のICT科に所属し、主にC++、VB.NET、PHPによるプログラミングの講義と実習、ウェブデザイン指導を担当します。また、基礎的な教材作成(プログラミングの基礎、アルゴリズム等)も期待されています。
コンピュータ 技術	D	ジンバブエ メリーマウント教 員養成校	小学校教員養成校において、校内のIT環境の維持管理を行いながら、学生へのITの授業(ワード、エクセル、データベース、プログラミング等)をサポートします。また、教員のITスキル向上や学校運営へのIT技術の活用へのサポートも期待されています。
コンピュータ 技術	D	ジンバブエ ハラレ技術工科専 門学校	首都にある技術工科専門学校のICT科に所属し、学生へのハードウェア全般に関する指導を行いながら、ネットワークやプログラミング等について可能なものの指導を行います。また、可能な範囲でIoTや人工知能等に関する知識の共有も期待されています。
コンピュータ 技術	D	ジンバブエ ムタレ技術工科専 門学校	技術工科専門学校のICT科に所属し、校内のICT環境の維持管理を行いながら、学生に対してソフトウェアやプログラミングの指導を行います。学生の知識の定着や授業の充実に関する新しいアイデア・取組みの提案や実践も期待されています。
コンピュータ 技術	D	ジンバブエ クシンガピケレラ 技術工科専門学校	主として技術工科専門学校の校内ネットワークおよび校内コンピュータの保守管理を行います。また、既存の学校運営システムに対する活用協力およびシステムの統合化に対するアドバイスも期待されています。
コンピュータ 技術	D	ジンバブエ ヒルサイド・ティ ーチャーズ・カレ ッジ	国内第2の都市にある中学校・高校の教員を要請する機関で、ICTの授業が円滑に実施されるためのコンピュータ(約100台)の保守管理や校内のICT環境改善のサポートを行います。また、可能な範囲で学生への授業も担当することが期待されています。
コンピュータ 技術	D	モザンビーク モザンビークセ ント・トーマス大 学	首都にある大学のICT(情報通信技術)学科の基礎コースにおけるカリキュラム整備及び講義を担当します。また、ICT学科のマスターコースに関しての助言も求められています。

コンピュータ 技術	C	キルギス アラバエフ大学	首都にある国立総合大学の理工学部で、日本のインターンプログラムに参加を希望する学生に対し、実際の現場で役に立つ技術や知識を教えます。また、帰国後に日本企業から業務を受注する学生に対しても助言、指導を行います。
コンピュータ 技術	C	キルギス キルギス工科大学	首都にある国立の工科大学の情報技術学部で、学生や同僚講師に対し、情報セキュリティ技術やソフトウェア技術を教えます。また、日本の ICT 事情を共有し、キルギスの ICT 人材育成に貢献します。
再生可能・省 エネルギー	A	タジキスタン タジク工科大学	工科大学にて、日本の再生可能エネルギー技術を踏まえ、同僚教師・学生とともに、カリキュラム改善の方向性を検討・提案します。同僚と共同でのセミナー・講義を通じて、タジキスタンでの再生可能エネルギー普及に必要な電気技術者の育成にも貢献します。
再生可能・省 エネルギー	D	ボリビア エルパソ職業訓練 校	職業訓練校の産業電子科において、ボリビア国内の将来的な同技術の発展を促すことを目指し、太陽光エネルギー、風力エネルギーといった再生可能エネルギーに関連した実習、授業の支援を行います。
経営管理	B	ザンビア ザンビアカイゼン 機構	現場 OJT を通じた配属先コンサルタントのカイゼン指導能力の向上、新規顧客の開拓等を通じたカイゼン活動の普及・定着の支援を行います。合わせて、配属先の組織運営に関する助言も行います。
経営管理	D	メキシコ グアナファト州競 争力のためのイノ ベーション・科 学・起業家精神セ ンター	科学技術イノベーションに関する情報分析に基づき、配属先が提供する公共・民間セクターへの事業戦略の策定について指導助言します。また、既存のプログラムの評価および科学技術イノベーションへの投資の改善計画の策定を支援します。
経営管理	D	ガーナ ガーナ企業庁 オ ブアシ ビジネス 開発センター	ガーナ中部にあるオブアシ郡にて、国内企業の発展促進のために企業支援サービスを提供するビジネス開発センターに所属し、スタッフの企業支援能力向上のための支援を行うことで、地域の経済発展に貢献します。
経営管理	D	ガーナ ガーナ企業庁 マ ンポン ビジネス 開発センター	ガーナ中部にあるマンポン市にて、国内企業の発展促進のために企業支援サービスを提供するビジネス開発センターに所属し、スタッフの企業支援能力向上のための支援を行うことで、地域の経済発展に貢献します。
経営管理	C	キルギス ナリン大学	キルギス北部の地方中核都市にある国立大学の経営学部が運営する投資・起業センターで、学生をはじめ、地域住民に対し、「一村一品」運動による起業を支援し、地域活性と住民の生計向上に協力します。
品質管理・生 産性向上	A	コロンビア ボゴタ商工会議所	コロンビアの首都ボゴタ市とその周辺地域の企業・団体への生産性向上を目的とした経営コンサルティングを実施。また、同僚のコンサルタントの能力強化に向けて OJT で指導を行い、コンサルタントの知識、能力向上を通じて、対象団体の生産性向上に貢献する活動を実施します。
品質管理・生 産性向上	C	ニカラグア 家族・コミュニテ ィー・協同組合省 (MEFFCA) 中 小・零細企業開発 促進局	家族単位の小規模生産者や中小・零細企業の品質・生産性向上、競争力強化等を推進する国の機関において、研修やワークショップの計画立案と実施への助言、対象者への直接指導を通して、スタッフの育成に資する活動を行います。

マーケティング	A	モンゴル 中小企業支援センター	中小企業支援センターに所属し、マーケティングによる企業支援を実施する他、販路開拓・市場調査に関する助言を行います。特に販路開拓に苦勞している中小企業への研修・相談会等へのサポートが期待されています。
マーケティング	A	ジョージア エンタープライズ・ジョージア	配属先は、ジョージアのビジネス関係者への支援や輸出促進、海外からの投資促進を図る首都の政府系機関です。配属先投資部職員の電子分野に係る能力強化を図るとともに、同僚と連携しながら、日本や他国の企業からの海外直接投資の促進を図ります。
マーケティング	D	フィリピン アクション(メイン オフィス)	非営利団体の「チカラプロジェクト」で女性が製作した商品について SNS、既存プラットフォーム、ソフトウェア、アプリなどを活用し、B2C 販路の更なる開拓を支援します。フィリピン国内・外でビジネスパーソンとのネットワーク構築にも貢献します。
マーケティング	D	フィリピン アクション(サテラ イトオフィス)	子ども達や女性を対象に所得向上プロジェクトを実施する非営利団体の PR 活動を通して、団体価値を高めることに貢献します。各種 PR プラットフォームに合った、デザイン構成やコンテンツ、「読みたくなる」コピーの書き方について提案・アドバイスをします。
マーケティング	D	ベトナム ゲアン省農業農村 開発局 農業マー ケティングプラッ トフォーム事務局	ゲアン省で生産されている農畜産物の各種市場情報の収集を行い、WEB サイトや SNS を活用して更なるマーケットを開拓する等の取り組みの実施が期待されます。
マーケティング	C	モンゴル 中小企業庁	中小企業庁に所属し、国内市場の販売活性化、市場分析、商品開発等に関する幅広い問い合わせに対してマーケティング分析を行い、助言する活動が期待されています。
マーケティング	D	ヨルダン ヤングムスリム特 別支援教育センタ ー	特別支援が必要な子どもたちが製作した工芸品の販路強化、拡大のために寄与していただきます。施設内の様々な部門と協力の上施設の広報業務にも力を入れていただくことで、マーケティングにとどまらない活動や経験ができます。
マーケティング	D	ジンバブエ ムタレ技術工科専 門学校	技術工科専門学校のアグロビジネスファームの運営をサポートしながら、同ファームを利用した新たなプロジェクトをサポートします。このプロジェクトでは、学生たちが実際に市場調査、生産計画立案、栽培、販売までを経験し、収益確保を目指します。
マーケティング	C	ブラジル ブラジル日本語セ ンター	ブラジルの日本語教育支援の中心機関で、各地の日本語学校が生徒を獲得するためにマーケティングを実施し、学校紹介動画、WEB サイト、イベント企画、SNS などを活用した戦略的な広報活動の指導を、オンライン勉強会や地方研修会に参加して行います。

名刺の数3000枚の意味するもの

日本ベンダーネット社長 エッセイスト 田上 智



1冊500枚の名刺ホルダーが7冊ある。都合3000枚余りの名刺を保有し、ビジネスにフル活用している。重要顧客から始まって作家、新聞記者、医師や弁護士まで幅広い。7冊のホルダーのうち、頻度が高いのが2つ、毎日のように検索している。

実は、ほとんど使わない名刺はまとめて別の箱に保管してあるので、生きているものだけで3000枚で、頻度の高い重要顧客のものは、先述の2冊で、大まかにいうと600枚ほどだ。顧客の検索は、それ以外にもインフォーマルな6団体のものが6冊。これらが、すべて営業上の主要ツールになる。自分の社会上の役割すなわち職業が経営コンサルタント及び作家であるため企業、メディアそして接待場所である料亭やフレンチレストランのオーナーと言ったところが自分の“コミュニティー”と言える。そしてこの“コミュニティー”は毎日拡大を続けているのだ。

面白い話がある。年々減少しているが、年賀状というものがあり、年に一度公式、非公式な挨拶状がある。ある役員経験者が、現役のときには300枚来ていたのが、引退したとたんに3枚に激減したという。これは、とりもなおさず、其の人物のコミュニティーの縮小を意味すると言っても良い。

この“コミュニティー”という意義づけは、トム・ピーターズの伝説的名書「ブランド人になれ」からの引用である。

「私の場合、例えば、カバンをなくしたとしよう。痛い。だけどそうたいしたことじゃない。財布を落としたとしよう。痛い、泣きたい。だけど、そうたいしたことじゃない。この原稿をなくしたとしよう。痛恨の極み。大問題である。だけど、死にたいとは思わない。しかし、名刺ホルダーをなくしたら目の前が真っ暗になる。死にたくなる」と。結局のところ、名刺とはその人のネットワークそのもので、ずばりコミュニティーそのものだ。

そのコミュニティーの大事さは実にしつこく具体的に述べている。其の主要なものは、

- ・コミュニティーの維持
- ・コミュニティーの育成
- ・コミュニティー・メンバーへの関心
- ・コミュニティー・メンバーへの思いやり
- ・コミュニティー・メンバーとの助け合い
- ・コミュニティー・メンバーから得る信頼

実体験だが、4年前に名刺交換して、その時は需給が合わなくて、仕事に直接は結びつかなかったが、突然、技術者を1名早急に派遣してほしいとの連絡が入りクロージングにまで行ったことがある。たかが名刺、されど名刺である。

名刺入れをコミュニティーと意義付けたのはさすが、天下のトム・ピーターズである。

年賀状も、「コミュニティーの維持」という観点から見ると、重要な作業かもしれない。(2020.4.25完)

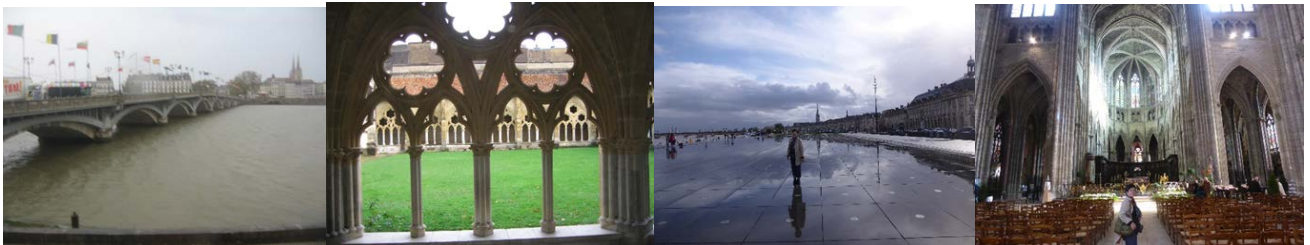
スペインバスク地方・フランス南西部俳柳紀行(3)

元 JICA シニアボランティア
北垣 勝之

人っ気なく街を貸切る鉛空

青い目が漆^{うるし}に燃えるバイヨンヌ

冷たい風と激しい雨の中、大橋を渡ってバイヨンヌの旧市街散策に出掛ける。いつもなら賑やかなはずの目抜き通りも月曜日の午後とあって人通りが少ない。まずは街のシンボルであるサント・マリー大聖堂を目指す。厳かな雰囲気立ち込め歴史を感じる古刹である。そう云えば当地は、古代ローマ時代からその存在を知られ中世には港湾都市として栄えた。その後も人々の往来が盛んで交易地らしい面影を宿す。街角でふと一人のフランス人老年男性に声を掛けられた。京都に7年間滞在し芸術大学で漆工芸の勉強をしていた由。その後フランスに戻りパリで漆細工に取り組んでいたが、気候風土(湿度)が適しているバイヨンヌに移り住むことに決めたと言う。「漆の入手が難しいのでは」と野暮な質問をしたら原材料は日本から取り寄せているそうだ。漆と聞いて昨今の日本は、2014年には生産量が極度に落ち込み645kgであったが、その後文化庁の重要文化財保存修理という旗振りもあって最近では年平均2.2トンのレベルまで回復してきたそうだ。それでも未だ足りないと言われている。思わぬ場所での一期一会によって日本の伝統工芸を知るきっかけになった。



我慢の子冷雨に煙るバイヨンヌ

水鏡やボルドーワインの酔い冷まし

回廊に偲ぶ年代大聖堂(左写真右奥に尖塔)

サンタンドレ大聖堂

ワインミュゼ試飲^{れんちゃん} 連 荘 酔い心地

歴史追いワインに浸かるボルドーかな

めろ^ろう 女郎 までメローなワインで酪酊せむ

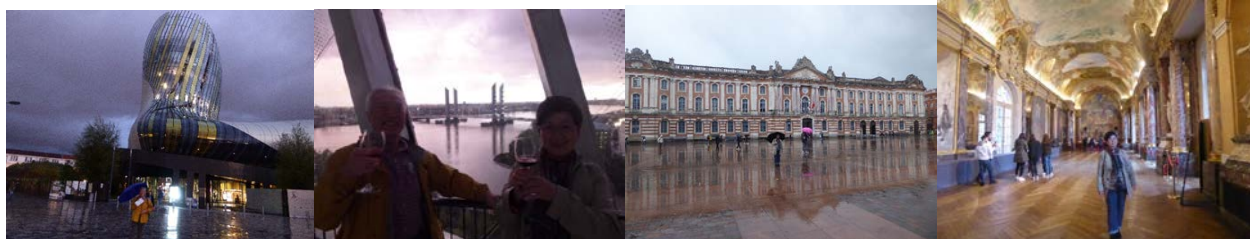
「ワインの郷」ボルドーへは26年前に一度訪れたことがあるが、その時の記憶はほとんど残っていない。サン・ジャン駅から中心街の安ホテルまでかなり歩いたこと、その近くの海鮮料理屋で生牡蠣を2ダース平らげたこと位しか覚えていない。従って今回は家内同伴でもあり後の旅程との繋ぎによい駅前に宿をとる、ボルドー探索はトラム乗り放題と一部観光施設が入場無料になるシティ・パスを事前に購入しての行動となった。当初、シャトー(ワイン醸造所)巡りも計画していたが、折からの悪天候のためこれを割愛、代わりにシテ・デュ・ヴァンというワイン博物館を二日続けて2回訪れることにした。

最初に向かったのはブルス広場の水鏡(Miroir d' Eau)という人工的噴水場、天気もよく解放感を楽しむ。その後トラムを乗り間違え遠回りしてCAPC現代美術館へ、ここは

日本人芸術家の作品が展示されているやに聞いて訪れるも見当たらず、19C 港湾建築の倉庫の面影だけを堪能して早々に退散する。再びトラムに乗ってガロンヌ川添いに建つ奇妙なデザインのワイン博物館へと向かう。ここはワインに関する複合施設、まずは日本流 3 階の展示場からスタートする。世界のブドウ畑をビデオで紹介、エジプト時代からのワイン生産の流れ、ヨーロッパ王朝とワイン文化の結びつき、ワイン積み出し港ボルドーの繁栄、戦争がワインに及ぼした影響、そしてワインは飲むだけでなく色艶、匂い、味覚など人間の五感との関係を解き明かしてくれる。単にワインの醸造や方法だけの博物館ではなかった。一通り見るだけでも 2 時間以上はかかる。最後の試飲は閉館間際になってしまったが、8 階の展望室で好みのワインを指定して賞味する。グラス片手にボルドーの夕景を眺めながら至福の時を送る。時季・時間的な理由で訪問客は少ない。アジア系はほとんどいない。お茶目な西欧系ご婦人から「お二人のツーショットを撮りませんか」と写真まで撮ってもらう。女性客も結構いるようだ。皆々ワインにお強いようである。

翌日は朝から雨模様、午前中は再びワイン博物館を訪れ前日の復習をする。最寄りのトラム駅で降りて歩き始めると雨脚が激しくなり、おまけに雷の追い打ちである。開門と同時に 20 人程度の客人と入館、すでに歩きなれたコース順に見学する。時間的制約は無く興味に応じてじっくり観賞することができた。あとは試飲会でワインを頂くだけだ。展望台の外に出てボルドーの街を心行くまで眺める。この頃には雨も上がりガロンヌ川の上流には虹が架かる。これまたワインとともに気分を高揚させる。かくして下手なシャトー巡りより充実したワイン体験になった。以下、ほろ酔いから覚めてワインに関する蛇足を付す。

フランス・ブルゴーニュ地方のワイン専門家の言によると、世界中のブドウの栽培は大体、気温 12~22℃の地帯で行われている由。それが最近の地球温暖化による気温変化で崩れ、ブドウの収穫にも影響を及ぼし、例年 10 月の採取を 9 月に早めねばならなくなったそうだ。収穫時期によって糖分の度合いが決まるからである。産地の温暖化がワインの品質を決定するという問題を抱え、ワイン生産者の苦労が増したようである。第 3 句は五七五頭韻句。



ワイン博物館シテ・デュ・ヴァン キャピトル広場の市庁舎(トゥールズ)

試飲ラウンジ 8f からガロンヌ川を望む

その内部大広間

クイズ旅カスレとカヌレ違い追う

ボルドーの菓子屋でバーゲンしていたカヌレを買って食す。私としては初めての体験、薄甘味でモチモチ感のする焼き菓子である。その生い立ちには諸説あるが、卵黄・砂糖・小麦粉を液状にした生地をバニラとラム酒で香り付けし、一晩寝かしてバターをたっぷり塗った型にはめて焼き上げる。一時は騎士団名からカスレとも呼ばれたこともあったが、その後カヌレ(canelé or cannelé)と呼ばれ登録された。なかなか旨い菓子である。

それではこの菓子と呼び名が似ているカスレ(cassoulet)とはどんな食べ物か。カルカソンヌの城内にあるレストランで食す。白インゲン豆に豚肉・ベーコン・ソーセージ・鴨またはガチョウのコンフィ、さらにタマネギ・ニンジン等の野菜を土鍋に入れて煮込んだフランス南西部特有の郷土料理である。なかなか脂っこい鍋料理で、これをパンと

一緒に食べれば腹いっぱい、すぐさま元気モリモリになりそうだ。兵士や農民たちの栄養食に適している。カルカッソンヌとトゥールーズの間にカステルノダリー(Castelnaudary)という町がある。ここの農家が土鍋(cassole)で煮込んだことから名付けられたらしい。この三地域はいずれもカスレが盛んで、具材に少々違いはあるにせよ 600 年位前からの伝統的料理として名が広まった。(注)コンフィ(confit):風味や保存性を保つため肉等の食材を油に漬けて火を通したもの。なおブラジルの「フェジョアーダ」も類似の煮込み料理である。

妻と来て義父の語りしカルカッソンヌ

カルカッソンヌ(Carcassonne)は凡そ 26 年前に一人で訪れたことがある。丁度同じような季節、駅を降りて次便の列車に乗るまでの 2 時間シャカリキになって街歩きをした。城壁の近くまで来たがタイムリミット、シテ(城塞都市)の中に入るに至らず引き返した。この残念な思いを、以前当地を訪れたことのある義父(故人)と語り合い、将来再び近くに来ることがあったら必ず立ち寄ろうと心に誓う。かくして此处に家内と一緒に訪れ雪辱を果たした次第である。

この城塞都市の歴史は古い。入口で貰ったパンフレットによると、最初にシテ(Cité)という要塞が築かれたのは紀元前 3 世紀、後期ローマ時代は堅固な城壁によって護られてきたが、やがて西ゴート族、サラセン人、フランク人に支配される。中世になってローマ教皇によって派遣されたアルビジョア十字軍に制圧され、その後フランス国王の所有になるも、17 世紀にスペインとの国境が西方に後退したこともあって一時は廃墟同然になった。しかし 19 世紀に塔や城壁が復元され今日の姿になる。1997 年ユネスコの世界遺産に登録された。とにかく広大で無類の堅城と見受ける。ここを攻め落とすには余程強力な軍隊がないと難しかろう。我々が訪れた時は、前日までの雨模様とは打って違って快晴、塔屋からの眺望は絶景なり。南西に雪を被るミディ・ピレネーの連峰、そして近くは松林とブドウ畑、さらにオリーブ園や牧草地が広がる。先代の御霊のお陰か素晴らしいお天気の日を頂いた。

ところが帰途、駅への道をぶらぶら歩いていたら急に天気が怪しくなってきた。晴天に虹、いやな予感がしていたら雨が降り出す。駅の待合室で休憩、予定の列車まで 30 分以上もある。日本で予約した列車番号が電光掲示板に出ているので安心していましたが、それが到着 5 分前に突然消えた。驚いて駅員に尋ねると英語が話せる窓口で聞いてくれという。結局、予約していた便は運休になっているので次発の各駅停車に乗ってくれと言われる。さらに数 10 分待つて全自由席の普通列車(TR)に乗り込み無事トゥールーズに戻る。往きは TGV 直行便で 40 分、帰りは各停の 80 分、それで料金は同額である。フランス国鉄 SNCF の運賃システムは、一か月以上前の早割だと普通列車より高速列車の方が安いことが多い。かつ時間帯によって運賃に高低差が生じる。なかなか複雑な料金体系なので、それと旅程を合わせるには一苦労する。日本に帰ってパソコンを開いて見たら、SNCF の 'TGV in Oui' から、私たちが旅行中に起こった大雨のため、「ベジエ(Béziers)辺りの線路復旧工事により一部列車を運休する」との速報が入っていた。カルカッソンヌ駅の掲示板でもそのことを知らせていたに違いない。仏語での掲示をちゃんと読んでいなかったことによる失態である。(続く)

第 13 回 ICT 海外情報ウェブサロン模様

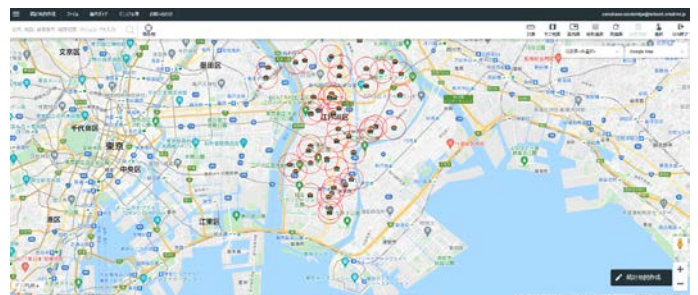
事務局

第 13 回 ICT 海外情報ウェブサロン(遠隔井戸端サロン)が 2022 年 5 月 21 日(土)20 時～22 時、ウェブにおいて開催された。当会の山川(事務局長)による「公的統計データの活用～少し斜めから見てみたら～」のプレゼンを題材にして、参加者からの活発な質疑・意見提起があった。主な話題を以下に示す。

・政府統計 e-Stat には非常に多くの統計データがある。その中から、人口ピラミッド、家計調査、統計 GIS を紹介する。特に、統計 GIS でリッチレポートを作成すると、簡単に商圈内の年齢層別人口、産業別事業者数などがすぐに得られる。



<https://www.e-stat.go.jp/>



統計 GIS による商圈分析

・Credit Suisse のサイトには、世界各国の貧富の格差が掲載されている。2021 年調査で、ロシアは 1% の人が 58.2% の富を占めており、世界一の格差となっている。日本は 18.2% であり、掲載国の中ではベルギーの 14.9% に次いで格差が小さい。

<https://www.credit-suisse.com/about-us/en/reports-research/global-wealth-report.html>

・Charities Aid Foundation のサイトには、世界各国の寄付・他者支援・ボランティア活動のランクが掲載されている。2021 年調査では、インドネシアが 1 位、ミャンマーが 4 位と健闘しているが、日本は 114 か国中、最下位である。日本は貧富の格差が小さいので、支援すべき対象が少ないのではないかと、この意見があったが、宗教や文化の違いなども加味したとしても、最下位はかなり情けない感じがする。

https://www.cafonline.org/docs/default-source/about-us-research/cafworldgivingindex2021_report_web2_100621.pdf

・統計データの活用について学習するため、総務省統計局データサイエンススクールのサイトを活用した。また、(株)ドコモ gacco による JMOOC の各種データサイエンス講座(無料)なども有益であった。学習する過程で、日本統計学会認定の統計調査士という資格があることを知り、昨年挑戦したところ運良く合格した。

<http://www.stat.go.jp/dss/index.html>

<https://gacco.org/>

<https://www.toukei-kentei.jp/about/tyousa/>

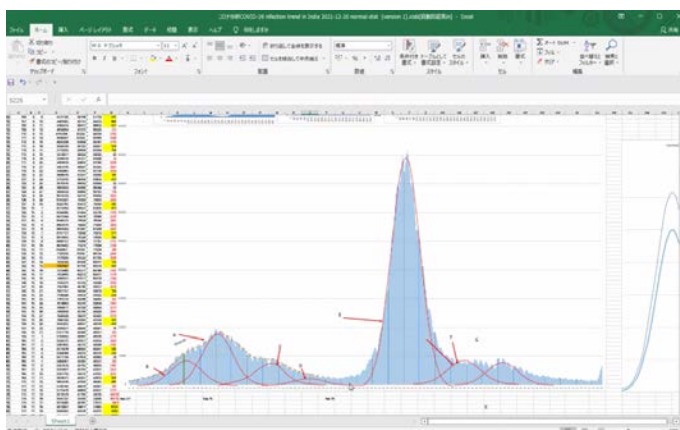
・ナイチンゲールは近代看護教育で有名であるが、英国王立統計学会の初めての女性メンバーであり、統計学者でもある。1854 年に従軍したクリミア戦争において、戦い自体による死亡者数より、病院の衛生環境・感染症等による死亡者数をはるかに大きいことを楔(Wedge)の図で示し、英国政府に衛生環境等の改善を訴えて、死亡者数激減を成し遂げた。統計データに基づく政策決定(EBPM: Evidence Based Policy Making)の重要性を示す好事例である。

・統計データを読む際には、留意すべきことも多い。例えば、以下の統計を斜めから見るとどうなるか考えてほしい。

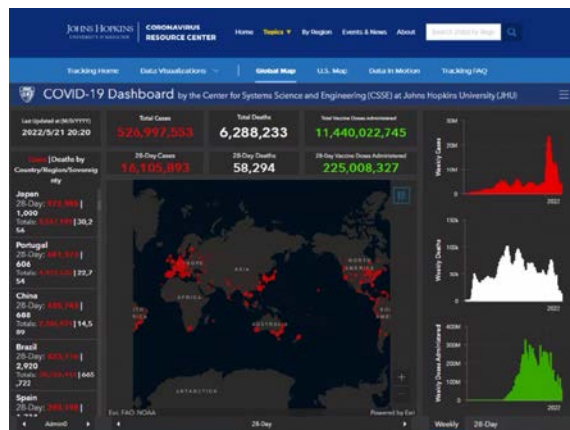
- ①国別国際観光客到着数は、フランスが世界一、中国がアジア 1 位だが・・・
- ②平均気温が毎年上がっており、地球温暖化が進んでいると言われるが・・・
- ③イノベーション(例えば、郵便→メール)は GDP を下げるが、生活の質は上がった感じがするが・・・
- ④エンゲル係数が近年上昇しているが、収入減になっているのか・・・
- ⑤GDP が好景気でも肌感覚とずれがないか・・・
- ⑥人手不足なのに、なぜ給料は上がらないのか・・・
- ⑦若者の海外旅行離れは進んでいるか・・・
- ⑧若者の新聞・飲酒・喫煙離れは進んでいるか・・・

参加者の高橋様からご自身の統計データについて、以下のとおりご紹介があった。

- ・インドからの留学生が新型コロナウイルスのため、来日できなくなったことを契機にして、インドの感染状況を綿密に調査・フォローしている。
- ・コロナの変種株ごとに見ると、すべて正規分布であり、約 45 日で収束している。政策により、ピーク値を下げることは可能であるが、収束期間を短縮することはできないことが示されている。
- ・中国の友人から新型コロナウイルス関連資料を受領したが、かなり早い時期からマスク等の使用方法が紹介されている。



インドの新型コロナウイルス感染者数推移

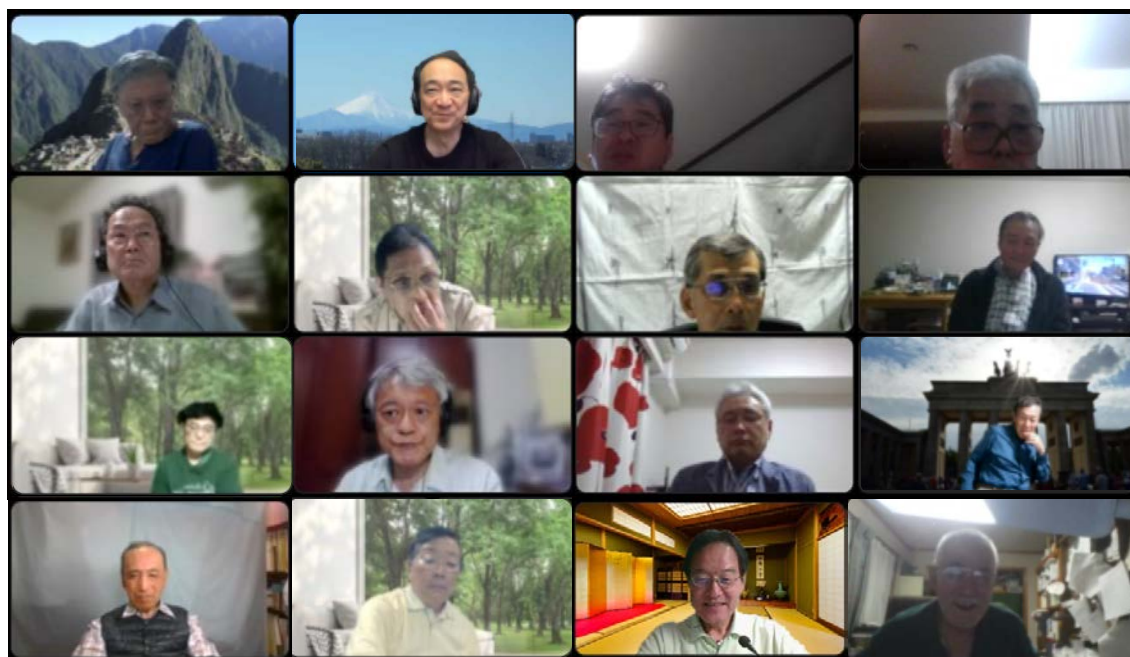


ジョンズ・ホプキンス大学ホームページ

他にも多くの参加者から、ほぼ間断なく活発な質疑・意見提起があった。

- ・クレディスイスは富裕層のみを顧客にしており、統計データはしっかりしている。
- ・ロシアに携帯電話を販売しようとしたが、貧しい人達が多く、全く売れなかった。
- ・イスラム教には、富者は貧者に施しを与えなくてはいけないという戒律がある。
- ・各種統計データの相互関係や社会システム等との関連を分析すると面白そうだ。
- ・統計調査、特に全数調査は費用がかかるので、ICT を活用した統計調査が進展することを期待している。
- ・統計の改ざん事件があったが、信用してもいいのか。
- ・基幹統計(53 件)については、報告義務があり、違反行為に対しては罰則がある。
- ・政府統計の運営体制として集中型と分散型があるが、前者はプロ集団になる反面、各省庁の政策との連携不足が生じやすい。一方、後者は日本が採用しているが、統計関係者が分散するため、各省庁に統計のプロが育ちにくく、最近のように、統計不正などが生じやすいかもしれない。

このように、予定の 21 時 30 分をはるかに越えて 22 時まで熱い意見交換があり、真にウェブサロンの雰囲気であった。



編集後記(編集者から一言)

皆様のご協力をいただき、おかげさまで会報第 103 号を発行することができました。今回は当会の石井特別顧問から「ゼロからのソフトづくり余話(その 2)」の特別寄稿をいただくとともに、海外グラフィティ、スペインバスク地方・フランス南西部俳柳紀行のご寄稿を継続いただき、誠にありがとうございます。

これまでのご協力に改めて心より感謝するとともに、当会及び当会報へのご感想、ご意見などございましたら、下記サイトにご記入いただければ幸いです。皆様からのさらなる会報へのご寄稿と ICT 海外情報ウェブサロンへのご参加をお願いするとともに、今後とも当会へのご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

<https://ictov.jimdo.com/コメント/>

発行： ICT 海外ボランティア会(ICTOV)
会報担当： 空席のため募集中 (編集長兼広報部長)、山川 博久(事務局長)
ホームページ担当： 山崎 義行(報道部長)、安達 信男(幹事)